

1 はじめに

今年度も、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、制限の多い中での生活であった。児童達は、そのような生活に慣れてきた様子ではあるが、このような状況だからこそ、子どもたちができることを話し合い考えていくことは、自主的・実践的な態度が育つよい機会でもある。行事なども形態を変えて、あるいは、全校児童が一同に集まることがないように、しかし、児童が楽しめるようなものになるよう工夫することで、児童会活動ができるようにした。以下では、今年度の実践を紹介する。

2 資料

(1) 今年度の実践について

ア 1年生を迎える会

4月中旬の委員会の中で、1年生の入学後、1年生を全校児童で温かく迎えるために自分たちにできることはないかを話し合った。本来ならば、各学年の実態に合わせて歌の発表や行事紹介などを行う予定であったが、感染症予防のため放送による会を行った。その際には、運営委員による「1年生を迎える言葉」を放送した。



イ 創立記念集会

創立記念集会

10月27日が助川小学校の創立記念日であった。その日は、運動会という大きな行事もあったため、児童の中には、創立記念日ということも知らない児童も多かったが、給食の時間に、誕生日の曲をかけ、助川小の歴史についての話や、クイズを行ったことで、全児童が楽しめる行事となった。

(2) あいさつ運動について

毎朝、運営委員によるあいさつ運動を行っている。朝、各教室を訪問し、運営委員から、「元気に朝のあいさつをしましょう。おはようございます。」の声かけを行っている。このことにより、朝のあいさつの声が以前より大きくなってきた。また、3学期には、各クラスに運営委員会が作成した賞状を渡す計画を立てている。



あいさつ運動

3 成果と課題

コロナウイルス感染症対策のため、色々な行事が縮小、あるいはなくなってしまっている実情がある。しかし、形態は例年とは違っていても、児童が話し合いを重ねることで、自主的に活動を行い、その結果、学校のために活躍できた、あるいは、責任をもって成し遂げることができた、という実感を児童にもたせることができたことは成果である。行事の際に、受動的になってしまう児童もいるので、児童一人一人が活躍する場面を作っていけるかがこれからの課題である。